

令和 6 年度 校内研修計画

平戸市立生月中学校

校内研修担当

研究主題

協調して課題解決を目指す生徒の育成
～協働的な学習活動と開発的生徒指導を通して～

1 主題設定の理由

本校は令和 2 年度から「他とのつながりの中で学ぶ生徒の育成」を主題として一貫して研究を進めている。昨年度の振り返りにより、本年度も、主に3つの視点に沿って研究・実践と実践を積み重ね、主題に迫っていくつもりである。

第一に主体的に取り組み、協働して学習を進める授業へのさらなる改善の研究を進めることである。昨年の学習に対する意識調査のアンケートから、改善はかなり進んできていると考えられる。本年度も「学びあい」を研究・実践することで生徒のさらに学習意欲を喚起し、学習に対する自信や満足度を育てたいと思っている。また、生徒観察を主体とする研究授業をすすめることにより、職員の生徒をみとる力を伸ばし、授業力向上を図っていきたい。

<令和 5 年度 2学期末 学習に対する生徒の意識調査アンケート結果より>

1. 授業は楽しいですか。	「とても楽しい」「まあまあ楽しい」・・・93.9%
2. 授業内容は分かりますか。	「よくわかる」「だいたいわかる」・・・96.1%。
3. 授業で「めあて」と「まとめ」は確認されていますか。	「きちんと確認されている」「まあまあ確認されている」・・・97.6%
4. 授業での「学びあい」の時間は役に立っていますか。	「とても役に立つ」「まあまあ役に立つ」・・・97.6%
5. ワークシート、ノート、問題集などに「書く」活動は充実していますか。	「とても充実している」「まあまああてはまる」・・・95.1%
6. 授業で作ったワークシートや配布されたプリントを使って家で学習しますか。	「よく使う」「まあまあ使う」・・・82.9%

第二に基礎学力の充実である。以下は、昨年度の市学力調査の結果であるが、全国平均点に届かないものがあり、改善を図る必要がある。同調査を精査すると、「知識・技能」にアドバンテージがあり、そこを強化することにより基礎学力の向上を図りたい。各教科を中心に実践方法を工夫し、情報をシェアし、全職員で個に応じたきめ細かい取り組みをおこない、学びを支援していききたい。

<令和6 1月実施 市学力調査>

		国語	社会	数学	理科	英語	平均
1年	本 校	57.9	51.3	48.6	57.9	54.4	54.1
	平戸市	57.7	53.3	47.9	58.6	49.8	53.5
	全 国	62.0	58.8	53.7	60.8	54.2	57.9
2年	本 校	67.6	46.6	48.9	52.9	50.5	53.3
	平戸市	65.2	42.0	42.9	52.0	41.7	48.8
	全 国	67.8	45.2	50.1	55.3	49.5	53.6

*全国平均より 緑 ≧ 全国 > 黄色 ≧0～—5 > 赤

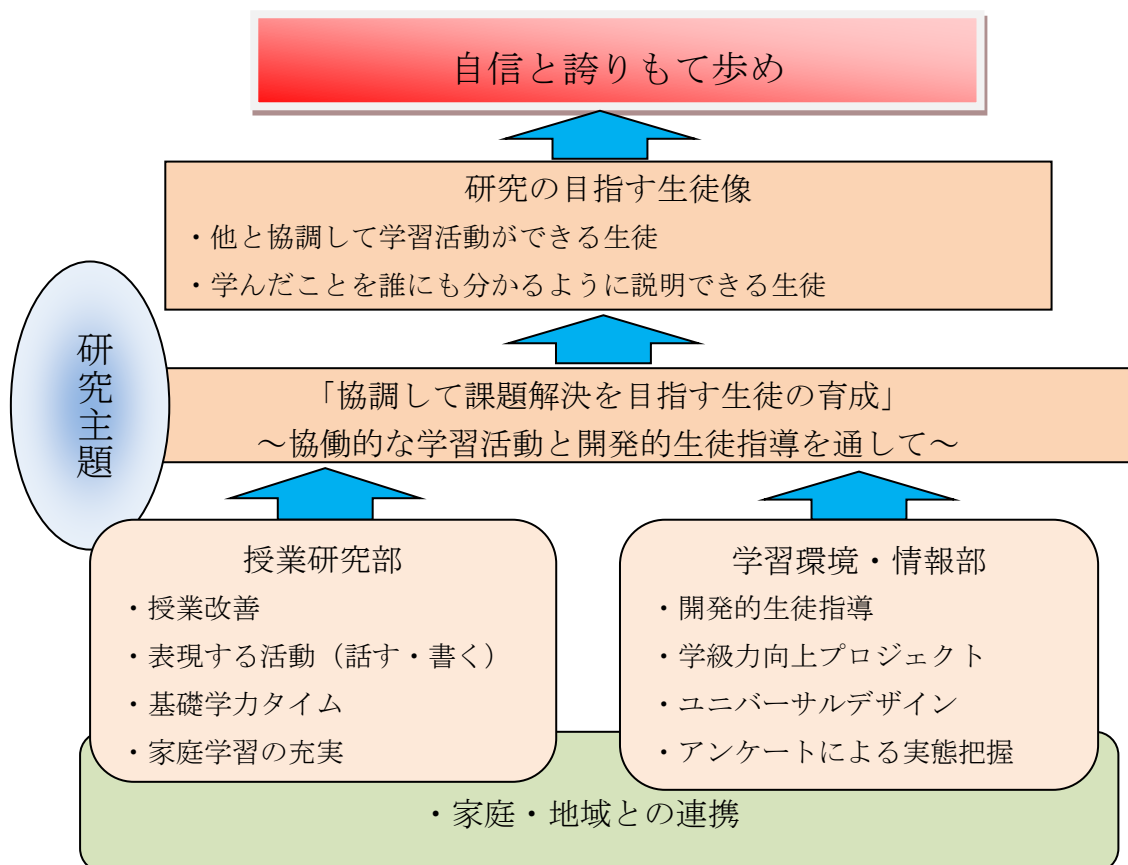
第三に学習環境の充実である。他との協調にはその基盤となる学級力の向上が大切であり、開発的生徒指導をすすめることが肝要であろう。また、ユニバーサルデザインに基づく教室・校内環境を見直し、すべての生徒が活躍できるようにする。さらには、地域・家庭との連携を深めることにより、生徒の学びの環境をトータルで整えていくようにしたい。

学びは「個」のものであるが、同時に「集団との関わり」の中で発見され深められるものである。協働し、支えあいながら自ら学んでいく生徒を目指し、研究を進めることで、本校の学校教育目標である「豊かな心を持つ生徒を育成する。」「確かな学力をもつ生徒を育成する。」「心身ともにたくましい生徒を育成する。」の達成に迫ることができるであろう。

2 めざす生徒像

- ① 他と協調して学習活動ができる生徒
- ② 学んだことを誰にも分かるように説明できる生徒

3 研究構想図



4 研究内容

(1) 各教科による授業改善

- ・生徒が主体的に取り組むことができる教材開発や授業形態の在り方。
- ・「学びあい」、協動的な学習活動のより良いあり方。
- ・「話したり・書いたり」と学んだことを説明する活動の奨励。
- ・研究授業の実施により、生徒観察の力を高める。

(各自1回実施、全体研究授業および授業研究会1～2回)

- ・各教科による、基礎的事項の洗い出しと指導法の工夫。
- ・基礎学力タイムの効果的な運用による生徒の基礎学力向上

(2) ユニバーサルデザインに基づく、より良い学習環境と集団力の向上

① 掲示教育の改善

- ・教室や校舎内の掲示物の配置

② どの子も活躍の場がある開発的生徒指導

③ 学習規律の見直し

(3) 家庭と連携した基本的生活習慣の在り方

① 生活習慣の確立(食事・睡眠)

② メディアコントロール

③ 家庭学習習慣の確立

5 研究組織

- ① 研究推進委員会・・・校長・教頭・教務主任・研究主任・各研究部長により構成。
取り組みの方向付けおよび進行状況の確認。

② 研究部

< 授業研究部 >

- ・研究授業や授業研究会の企画運営
- ・「学びあい」学習の授業改善及び基礎学力タイムの活用法、家庭学習の改善。
- ・基礎学力向上を目指した各教科の取り組みの情報交換及び啓発

< 学習環境・情報部 >

- ・開発的生徒指導や学級力向上プロジェクト
- ・ユニバーサルデザインの視点に立った校舎や教室、掲示など
- ・アンケートによる状況把握と分析等

- ③ 全体会・・・・・・授業研究会や研修会など全体の研修や、情報のシェアなど。

6 年間計画

月	研 究 項 目・内 容
4	○推進委員会(研究主題・研究内容の検討) ○全体会(研究主題の決定)
5	○推進委員会 ○2部会(本年度の活動計画作成)
6	○2部会(活動) ○研究授業スタート(2月まで)
7	○2部会(活動反省) ○授業改善アンケート
8	○全体会(全体研修会) ○各種研修会の伝達講習
9	○推進委員会(2学期の活動確認) ○2部会(2学期の活動確認) ○全体研修会<中心授業>(研究授業・授業研究会)
10	○2部会
11	○授業改善アンケート ○全体研修会<中心授業>(研究授業・授業研究会)
12	○2部会(2学期活動反省) ○推進委員会(2学期の反省と3学期の確認)
1	○2部会(活動計画確認)
2	○2部会(1年間のまとめ)
3	○推進委員会 ○全体会

7 学力向上プラン

方 策 1	学んだことを誰にも分かるように説明できる力を身に付けさせる。
具体的な取組	○授業の中に、協働的な学習活動を取り入れる。 ○授業の中で、ワークシート等を活用して「書く活動」を取り入れる。 ○定期テストでは、文章で説明させるような記述式問題を1問以上出題する。 ○基礎学力タイムを設定する。
検証方法: 目指す検証結果	○定期テスト: 記述式問題の無回答0を80%以上、ほぼ満足できる解答(7割の達成率)を60%以上とする。 ○学期末の授業改善アンケート: 授業満足度70%以上
方 策 2	1日2時間以上の家庭学習を定着させる。
具体的な取組	○自学ノートを持たせ、1日1ページ以上、各学習に取り組ませる。 ○自学ノートの提出を毎日チェックし、学習内容について助言する。 ○優れた自学ノートについて、教室掲示などで紹介する。 ○学習の調整力を育成するため、クロームブック等の活用を促進する。
検証方法: 目指す検証結果	○授業改善のアンケートの家庭学習時間2時間以上の回答を25%(昨年度実績17.1%)以上を目指す。